



影
月

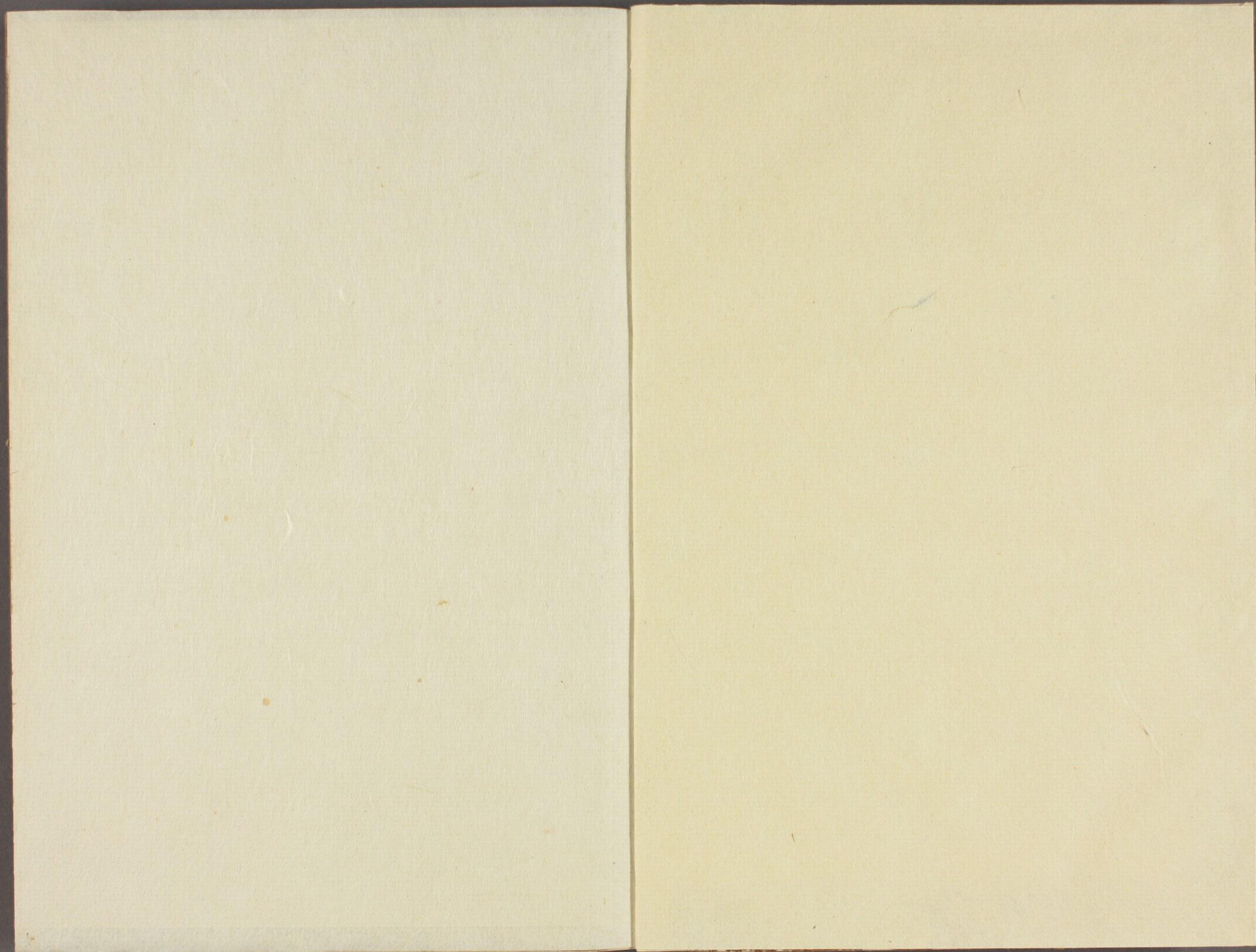
奥
村
氏

中村俊定文庫

文庫 18

407





東駿阿山律

影古凡

藤園金龜撰



東駿阿山律

影古凡

藤園金龜撰



藝園金匱

俳諧古題

東坡居士集



序

昔、院庭に筆を施す家、尾流あり
六、之、慶巴、都子、河、雅、の、聲、歎、と
受、一、の、其、師、母、と、去、く、今、も
昔、の、勢、を、も、繁、多、少、の、門、人
又、世、は、ま、ま、流、沙、を、お、く、と、の、

さゆくちる中子ハ更ハ
彼の階より以て野中ハ
清くあり神と浸一は其
新千七人若くあり然願ふ
車一然く松の立家ハ
其早くハ一ハ思ふハ一ハ
公ハ求む得きハ口ハ出ハ

出積ハ是も等ハ一ハ
写せば是れ本ハ一ハ
六巻一ハ一部ハ集をなせり
とせり家ハ一ハ語の序を索む
そも六巻居ハ家ハ一ハ年乃
昔ハ道ハ一ハ志ハ一ハ
日新出月ハ入ハ一ハ

福連くすし義校柳し
 手引せし是は孫之古人
 一字の師とせし是は師と
 我よおのく思あるはすれ
 とや少雅の素と 辞一す
 事し起るは了境は隔
 字は終ふ其草一福は目見
 こと終ひ又只傳(笑)一撰花
 の大旨は述く便り是也
 賜書事一有別

昔時臨也有



枯野

入道

松

林

松

林

松

林

松

はらふもがたもみ

羊はなほみ人

あまけもみ海

るも物か

るも命

一句一頌

先師留別ノ忠告ニ依テ
次テ爰ニ首尾ノ吟

六々庵

先ワノ終極探る日

ひりりもや新櫓の七尺

きんこも鐘も眠る心

いりりもや腐る心

重危

善古

盈行

住別々たり猶もさう通り

蓼珠

初ノ目と師は多分好希

荒振

希供しそハ面分の菊中月

耳得

く年俵よ年も安きよ

蘭府

露若く多賀の社の神護子

周露

嶽もたれと嘆く治部との

子来

英しや男果報の角こてぬハ

之仲

粽の毎千赤ハ神くら

馬老

浮くくさるくさるハ何ハ

居邊

富士有あつくと娘となつて

六賈

花母さく東うさの撰集も

鳳枝

さく出さくさく 能筆

鐘山

右

四季不分野

豆の紫花畔よつらやと朝の秋 耳得
 一花のアサとや花ほら 盈行
 心もと拍あをままま 蓼珠
 姫を千の州の鳥ともや 茵多戸
 ちく実や踏ものなくは溜らん 荒婦
 蝶いと山およるおの物 簾音

花くもやあの綿ハ岩はたく 女 扇籬
 罅の糸なまと琴を泥いたり 簾文
 草ももなぬ雲のゆもや響拍
 川押ももあるゆ軽もも子繩 娛鳴
 碓もも河に拵もも揺すもも大仙
 草海苔やむもものみみり 周露
 草やもも一ねて藪もも左更
 ちくもも山ともももももも 萬古

麻

聖洞子もなほそや八咫のとも年 桃魚

草猪の夢よりなほはく白い南 千兩

ぬららん葉よハ好立あり 杜若 野水

故屋より小隠家りしうて朝露は 桺雨

麻節やははりの鳩の谷よりも 浦船

いくばを焼茶消えくすの草 蒼芦

草猪の手柄を賣あくる屋あり 雨光

よきまういさぬの藤枝と古桑も 季風

かたすまふと女のむね葉や杜若 英紫

夢をよむか枯く垣根千舞音煙 嗽石

そのまじや照るよかんを村付由 圓之

夕升り尾上あつら積く猫の志 竹工
 争うは月片の積や小次樹 馬考
 切方や音なりとるも新形なり 蘭府
 菽入や接種り咲く待時ふ 吳牛
 山吹りおる後ゆきく咲よき 雅堂
 葉の花や百お雀も日の念 都鷹
 土釜のちりりこなりぬる雛子色 葛友
 名月や石牛 蕪く 控あし言 元子

厂

雨と心とのりく 並 睡哉 久能
 一掃く牡丹の星と如よき 真津 素少堂
 一掃くは入かへて竹婦人 由比 榊市
 初丁や一声ハる後時を以 庵原 調榊
 おもひや海平の流るも流るも 這来
 羨し心とのり倦く 松の世 梅雅

キウのたゆふ足袋とけりや美菜福 屋我

大宮

近きくきく夜あもじ様哉 梅富

名月や山ハ山く出おん 梅五

汝法のそんえく梅のそんいん女花夕

ゆふあふのちくく僧や秋の篠横割竹外

さるやあふのちくく牛一吉原の音 夜笛

七夕や美摺や如申く鳥 三暹

晴る、そのとくは今も五月る 僧 文牛

瓢箪の二おあをそくくも鶴水 蛙音

嶋田

人形の地よるはす暮の月 桃舟

さゆりく引あふをそんくは美水 残馬

まよこ暮一夜ハ神いくや夜更、大耳

山ろ舟と名へし一澤の紅雲鳴沢 氷壺

胡のほやそくくうらうら城腰 昔我

多きやそくくふと高根 氣量

中かしのそくくいひ高根 杜十

遠江

掛河

莫くく物くふそくく 周竹

初名はそくく人そくく 之園

金谷

冬くく甲くく東の長也 後ノ月 百水

本食もあのかきなり 菊の盾 随波

多の物くく喫てや猫くく智恵のけく濱松 馬浪

初名子や雛の同く命くくあつと 麦途

一草一の葉くく葉のかけ 冴者哉之別國府 米林

花洛

萩の葉くくさくく是くく 蟬ハ多也 山只

織女くくをのなをそくく 美しをれ 糸屋

唯

虫干や皇徳の中は涅槃像 子鳳
初音や降くぬき根の有る様 大津 文素
遠里の清くもくくは秋枯草の 可風
稚子らくく清くもくくは秋枯草の 伴勢 麦浪

東武

野山らくく市街ものこき暮の月 葵太
栴一輪さても志本のくは見え入 雷堂

雨さそくくくくくくくくくく 吐月
其角と恵よハ控はまきの床 枕鏡
河よ山守筆くくくくくくくくく 嵐腹
はくくくくくくくくくくくくくく 女 野きく
似蜂の神柱くくくくくくくくく 葵且
西山一月とあつるや片くくく 白牛

轉ひく〜行燈さ〜鳥酔
 朝のほや〜胡蝶の〜人〜
 せまき〜奴境とある〜や下涼 門瑟
 蝉〜鳴〜朝の〜入〜暑〜止弦 卷阿
 婦〜山〜柳〜風〜見 鷹明
 葉字今世も〜山〜
 編子〜一〜事〜あ〜の〜
 黒露 六窓

海棠

七月も〜の〜若葉の如 柝几
 濁〜の〜御板川 今泉 尺五
 周〜の〜や〜
 響窓

尾張

降不〜の〜郭〜 鳴海 和菊
 ま〜の〜
 鉄叟

其の或は實をくく牡丹也 蝶羅

尾陽

つとくまきと魚くすな帯も 也有
しを入く深きも口くさるあふ
余のいどく人合をさくくさくく
翁徑の甲くく鼻かじあふ
つとくつたなすくく二ふらやん
伯葉 八亀

あふ陰のよきみもあふく田根は 采布
越立平根は深のさくく蓮のい 田雲
つとくつたなすくく二ふらやん 馬六
彩みくく標のあふくくやんあのみ 昌向
まけるものいんくくくはの柳る 立池
若州やあふくくは鏡を飾る也 南空
あふくくあふくくあふくくあふく 紀束

ひよりのまゝとのおの筆跡

ありきと

他者

不知

十師史七段

純子所門人子對し子貞と
まゝに筆我をさしし十年の

道の修りハ涼より端ハ紙重と
いハ林下よりそとよと愚と心
まゝに外子遊と俳諧の媚人
いよと喜ハ百世の如體なり
右志の一集甲の句く
いハ書との流染を志し
いハ半如し一席より尾端乃
半一掃雅とと繁流い

歌

附録の編くハ遷者ヲ
ちりり合す於五子少
也り多於于時寶曆癸未冬夏

龜山

短歌行

知己鐘山人ハ吳門
觀楓亭ノ主ナリ

鐘山

君
也こ一為く西の陽く、柳の影
連、舟の恵り、春の夕暮る
君ののんぼり、帝子脱ぬく
新より二里の便道と云く
山

既

何うなるも不意なる海の月

心せしむる東のゆるぎ

踊らぬまゝに抱きの捨つもの

聲のちエの指折一隊の少

帳のしるしを都心の陸並

まゝに日かきつゝほろろと

吾の紫うゝ花飛くよ湯の白ひ

六はゆるりたるり加馬の紫

山

危

山

危

山

危

山

お、捌きの青煙とよまゝの如く

傍中へ中へ末のまじり山

神のまゝにまじりく日、まじりぬ

少くもまじり鐘乃入相

不気味の響き千七条ありぬ

歌のまじりくのみは法はと先

長月も序も終月もあゝ法

赤いものゝ水麻はそれと

山

山

危

山

危

山

危

二人の道は尋ねて臨み人
安くは焚火よ音かき
舟中の舟と舟も舟は
離れやりく玉の光り

系へ出ても夢の如く水空
舟は除くとも短くは舟は

舟は人へ生海も舟は
雨の元見ても舟は
月よ如く舟は舟は
雲はよハ舟は舟は
と舟は舟は舟は舟は

奇仙

旧交六花庵乙兒ハ
今河東ニト居ス

中意

驚く終枯木何くかんこも

苔咲河津山石のあさり 乙兒

望もまこかたね庭よ火と焚く

世ハ横よみるのよほし 急

望月の駒牽觸もあき後日

露の出も煙や名もはれ 思

菊くぐく造り酒をのうやま積 鳥

六僧とあねハ藤末よハせぬ 思

らんがくの久留葉博くハ波のうハ 危

きとくハ階うとあとのまのなり 思

稀く香や借若の神狐ゆるけ魚 危

あの年一とくも程意の山 思

う〜枯の源氏うよハ母とまのり 危

あ〜く〜えも月のし〜や 思

かやうな魚網の音はさぬ

魚

目如くと連年一羽子大工とも

魚

の人はきり縮むあさう〜

魚

尾とハ蕨中ハは〜

魚

目〜〜せ〜〜の味はさよ

魚

あ〜はとあやふと〜

魚

親あ〜ハたさよあ〜

魚

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

魚

森石ふしの鳥もあ〜

魚

耳あ〜あ〜あ〜あ〜

魚

体賃も新地ハ賃すハあ〜

魚

師をよき川と梅も咲ぬハ

魚

有明のみそさ〜お〜

魚

庫裏の音座も怪〜

魚

あ〜あ〜あ〜あ〜

魚

あ〜あ〜あ〜あ〜

魚

北

廻りの様場よ所の荒か(一)里

糸も只のめ神となん 兎

仲やうよりぬ白髪の子出く 兎

口も程こやうよ後の吸物

さしやうと書よ花の生と 兎

いほき城の價千金

梅染。出いぼつ(一)二日 兎

時多ましぬ里し(一)をさる

り先を(一)ぬ古(一)や(一)の(一)く(一)程

西上人の路と(一)あ(一)り(一)ん(一)の(一)世(一)の(一)
染染(一)を(一)去(一)く(一)の(一)の(一)の(一)の(一)の(一)の(一)
意(一)よ(一)る(一)は(一)た(一)あ(一)る(一)の(一)の(一)の(一)の(一)の(一)
秋(一)や(一)さ(一)ら(一)ん(一)月(一)や(一)さ(一)ら(一)ん(一)の(一)の(一)

程(一)く(一)く(一)程(一)あ(一)や(一)鴨(一)と(一)く(一)程(一)く(一) 兎

一日の(一)も(一)あ(一)り(一)八(一)重(一)吸(一)本(一)程(一)式(一)

哥儂

親明七吟ハ城東
塔西庭山下ノ連石

子來

惜心子のほろくはの露の如

踏くぬよ秋も月のふれ 兼友

今人まゝく九日小神社のてきて 六實

のりまゝのきり下戸の面目 兼友

遠い柳まゝの造作の残きいふ 兼友

椿も年一の咲いたまゝ 琴馬

る常一の餅乃子よそは海に 之仲

まのりまゝの母の扱 來

坂のりまゝの南に 交

作のりまゝの鶴の名に 危

やりのりまゝの靴と 而

乳の世にひまのね 賈

月々續く杭の紫こいの星も哀
 織るや於子の虫もささく
 哀し角力仲間さうりあさ
 朝露の二枚折とありさへ
 系りのさ花あもよよ女はハ
 河原やも産もささくささり
 休勢も世々くさふと続くと
 音隠しとそ兼忽子万
 馬 仲 来 灰 危 而 費

皇都

橋倉治吉場坂

後

平成元年 亥打修補

鶴巢先生

與村

藏書